

収益の出せるNPO

「NPO」と「収益」というと相反することのように思われるかもしれませんが、なかにはNPOが事業で収益をあげるなんて邪道だという意見の方もいると思います。しかし、この考えが、NPOの成長を阻害している要因にもなっています。

NPOを経営し続けるためには、組織をまかなう資金（スタッフの給与・事務費や事業費）の調達だけではなく、次の活動のための投資的資金も生み出し続けることが求められます。現状では会費や寄付金だけでは賅えないため事業活動により収益を確保し、投資的資金にあてなければなりません。その点では一般の企業活動も同じで、企業においても常に事業活動に投資を続けていかなければ生き残ることはできません。

最近石巻地域でNPOからの相談として顕著になっている事例が、NPOの経営問題です。法人を設立して2～3年目くらいの団体にとり初期の活動資金として頼っていた行政からの補助や委託が削減され、自立を求められる段階になり、新たな事業活動の展開に苦慮している団体が増えています。そこに、今回の町村合併により市民活動への予算の削減や打切りが異例のスピードで進んでいます。

NPOの経営を続けていくために、事業活動により収益を生み出し、次の活動へ投資することが求められます。自らの地域において、資金を調達できる仕組み創りと、NPOの理事にも経営感覚を持って組織経営をすることが求められてきています。

せんだい・みやぎNPOセンター理事 木村 正樹

内 容

総会記念セミナー、第8回総会報告
らくだのブック、BOOK
事務局活動報告、など

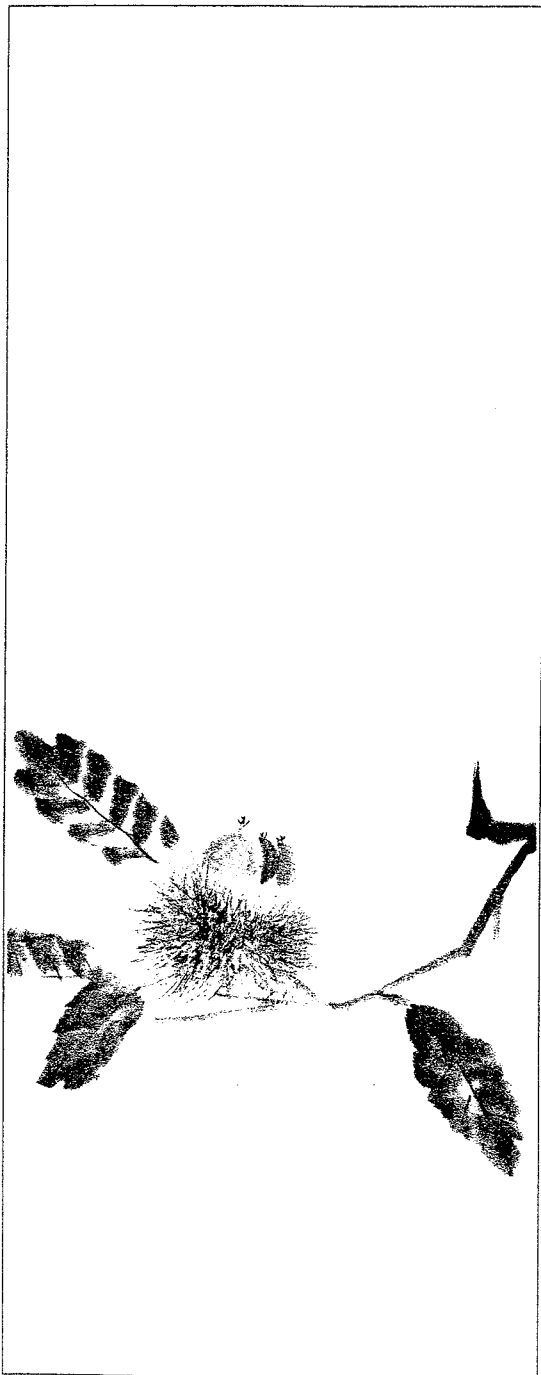


イラスト 眞壁 政江さん

～せんだい・みやぎNPOセンター 総会記念セミナー～

コミュニティの自立と経営

今年の総会記念セミナーは、昨年の「これからのコミュニティ経営」というテーマから引き続き、コミュニティの再生に関して調査研究を続けている宮城大学事業構想学部・山田晴義教授に「コミュニティの自立と経営」というテーマでお話を伺いました。

さまざまな社会の課題がある中で、地域社会をどう再建していくか、また地域セキュリティの関心が高くなっているこの頃、NPOや市民活動の働きとコミュニティの人々の関わりについて事例を交えながらご講演いただきました。

- 講演者：山田晴義氏（当センター理事、宮城大学事業構想学部教授）
- 日時：2006年9月9日（土）
- 場所：仙台市市民活動サポートセンター

よう。そのような中でコミュニティはどのような役割を果たしていかなければならないのでしょうか。

2. コミュニティと行政による動きから

1. はじめに

ここでいうコミュニティとは顔の見える営みや組織、自治会や町内会を含むものをいいます。なぜ衰退傾向にあるはずのコミュニティに目を向けなければならないのでしょうか。

生活水準が向上すると行政側が行ってきた社会サービスを実現し続けるのは大変むずかしく、行政の限界がでてきます。そこで民間の企業や市民セクターへの期待が拡大するとともに、市民活動が様々な役割を果たし対応をしてきました。

しかし市民活動やNPOにも、地域の中で起きている問題解決に対応できないときもあります。そのような場合に市民活動やNPOだけでなく、コミュニティに期待せざるを得ない状況になっています。いろいろな課題がある中で、うまく取り組みができるかどうかとできないところとの地域間格差がでてくるでし

(1) 住民が主導の取り組み

静岡県旧天竜市熊に「NPO法人夢未来くんま」があります。組織の中には収益事業である水車部とその余剰収入で行うしあわせ部、いきがい部、ふるさと部があります。水車部では母さんの店、物産館、水車の里、イベント出店、体験実習などで、年間約7千万円程度の事業収入を生み出し、雇用機会や、副業や兼業でやれる仕事作りが実現しています。

しあわせ部では福祉の地域サービスを行っています。いきがい部やふるさと部では生涯学習、環境保全等の活動が行われており、行政が提供するサービスを協働で行い、他の地域より豊かなサービスを生み出しています。

施設や拠点を整備していこうとするといういろいろな課題もできますが、そのような場合には男性社会を巻き込みながら地域の共有財産を活用し、初期投資の資金を生み出し、経営をまかなってきました。

類似事例として新潟県旧安塚町細野にある

「NPO法人自然王国ほその村」があります。ここでは自分たちで宿泊施設や工房などを収益事業として行い、それをコミュニティのサービスに還元する活動をしています。

また、岩手県旧種市町大沢の集落では、青年層が中心となって大沢農村振興会を作りました。この地域は出稼ぎの常習地帯でしたが、みんなが共同農業で働ける仕事づくりをしています。

三箇所で共通するところは、一定の収益事業を行いながら行政ではできない地域サービスを提供しているところです。

これらは中山間地域のモデルですが、他の都市部なども同様に地域の資源や特性を生かした事業づくりが重要となります。

(2) 行政の取り組み

ここでは行政が主体となり、コミュニティの再生に取り組んでいる3つのモデルを取り上げます。

「岩手県北上モデル」

岩手県北上市では旧村を中心に公民館区単位で再編することを決め、また地域作りにおいては地域の計画は自分たちで作る、重点的なものから実現を図っていくことにしています。

地域拠点施設の地区公民館をコミュニティセンターとして地域に管理を移管して、コストは行政が出しながら管理委託を始めています。

また、行政によるコミュニティ財源の再編が有効で、それぞれの地域が自分たちの力量に応じた地域作りができます。それはコミュニティが自主的に地域を運営していく条件としては重要です。北上市ではいわてNPO-NETサポートがコミュニティ組織の人材育成に取り組んでいます。

「栃木県真岡モデル」

栃木県真岡市では、財政、予算の作り方に工夫があり、コミュニティの経営に使えるお金を各部局から集め、一本化してそれを各自治会に補助や助成をしています。この中で必修事業と選択事業を設け、何年後かに事業メニューを変えるしくみをとっています。この他、地域がやりたい事業を市長が認めると実施できる特認事業があり、コミュニティが3タイプの事業を運営していくこととなります。財政的な工夫によってコミュニティが自主的に運営をしていく可能性がでてくるのです。

「安塚・山岡モデル」

市町村合併をしても従来のまちづくりが維持できる状況を事前に作り、全町NPOの組織

報 告

せんだい・みやぎNPOセンター 第八回 通常総会

日時：二〇〇六年九月九日

会場：仙台市市民活動サポートセンター

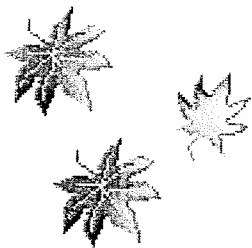
今年、菊の節句の開催となった第八回通常総会。議長の大滝代表理事により、総会成立を確認（正会員十八名、委任状五十七名）、第一号議案・二〇〇五年度の事業報告および決算の承認、第二号議案・二〇〇六年度の事業計画および予算の審議・決定、第三号議案・定款の変更の承認、第四号議案・役員を選任について、すべてご承認いただきました。役員を選任については、引き続き十一名が再任され、代表理事に大滝精一、加藤哲夫、常務理事に紅邑晶子、黒澤学（新）、事務局長に紅邑晶子の体制と決まりました。今期常務理事に就任した黒澤さんは、九月一日に移転オープンした仙台市市民活動サポートセンター（以下、SCC）の移転プロジェクト担当として、この一年ご尽力くださいました。SCCについては、次期指定管理者の公募の申請も先日完了したことを報告いたします。

当センターは、具体的な取り組み課題に向き合いつつ、この十年間の社会環境の変化や市民活動の変遷と当センターの関わりを検証する機会をつくります。今後ご協力よろしく願います。（青木ユカリ）

化を図りました。制度に基づく地域協議会等と全町NPOとの関係が障壁になっていることも一部にあるので、調整や工夫が必要になります。

3. 新たなパートナーシップに向けて

中間組織の役割優れたNPOや先進的な行政の姿が見られる一方で、大半の地域はコミュニティの再編をどうしたらよいかという課題があります。課題の解決には、ソーシャルエコノミー（社会的経済）を構築して基盤を広げていくことが必要で、中間支援組織の存在も重要になってきます。



ソーシャルエコノミーとは、行政からの助成金等も活用しながら非営利の経済活動を展開し、そこからの利益を地域に還元し、組織の再生産に還元していくことです。しかし地域が支える構造がなければ、形成しにくいのではないのでしょうか。ソーシャルエコノミーの担い手となるソーシャルエンタープライズにおいては、会員や地域社会による民主的な経営を実践していく必要があります。サービスの提供を通して、地域社会の利益に貢献し、結果的に地域からも支えられる構造によって、公的な支援も受けられるソーシャルエンタープライズが大切です。その際、地域住民の雇用、地域社会の活性化、住民同士の交流の促進、信頼関係の再構築など、地域貢献を行っていくことが重要だと思えます。

では、コミュニティの再編における中間支援組織はどのようにあるべきなのでしょう。私は農協、商工会議所など多様なセクターも中間組織ととらえてもよいと思います。そして中間組織として技術的なサポートやコーディネートをしていく機能が重要となってきます。もちろん中間組織自体が自立していかなければならないという課題はありますが。

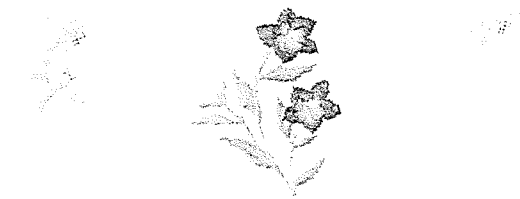
2006年の春に、東北開発研究センターの調査研究の一環でイギリスへ行きました。そこで得られた結果を紹介します。

昔は医療や福祉などは国が全部提供していましたが、サッチャー政権の改革によって不況により失業率が高くなり、アウトソーシングや民営化が目立っていました。そのため、国策として、①SRB（Single Regeneration Budget：各省庁のお金を一括して衰退地域に投資する）②チャリティ制度 ③コミュニティ・ニューディール（衰退地域に集中して投資をする事業）④地域戦略パートナーシップとして、特定の衰退地域から範囲を広げての事業 ⑤コミュニティ利益会社制度（社会的にソーシャルエンタープライズである場合には事業をしやすい状況をつくる）⑥地域開発庁の設置、などの事業や制度を実施しています。

一方でパリッシュには法人格、パリッシュカウンシルやタウンカウンシルという制度化されたボランティアの議会があり、一定の予算で自治が行われています。また行政や企業、民間団体がパートナーシップを組んで地域再生に取り組んでいます。例えば、Development Trust（雇用創出や経済活性化）、Community Partnership（コミュニティ形成、人材育成）などの組織体があります。さらに、RCC（Rural Community Council）というNPOや市民活動的な中間支援組織があり、パリッシュ

やコミュニティの支援をしています。

私は今これらに注目しているところです。RCCのひとつに、英国Wilshire, Swindonという地域にある「コミュニティ・ファースト」という中間支援組織があります。1965年に設立された組織であり、有限責任法人でチャリティ団体として認定されています。コミュニティワークの専門家でもある30人のスタッフがおり、年間3億6千万円程度の事業収入があります。パートナーシップ資金を活用し、パブリッシュやその他の団体と事業を展開しています。スタッフの研修システムもしっかりしており、自己評価や組織評価ができる構造を持っています。



事業内容は、①Village Halls (コミュニティセンターの経営が成り立つようにコンサルティングを行う) ②Village Shops (農村店舗、パブが成り立つようにコンサルティングや経営支援を行う) ③Rural Housing (低所得者への住宅の提供を行う) ④パブリッシュのビジョン作りとそのためのコンサルテーションを行う ⑤信用組合 ⑥コミュニティ保険の運営 ⑦コミュニティエンタープライズの育成(コミュニティ起業の育成を行う) ⑧コミュニティのコンサルテーションを行う ⑨助成金 ⑩農村トランスポートプログラム(バイク)、など多様で、農村や過疎地域の衰退に効果があると思われます。

また、戦略経営チームがあり、「コミュニティの運営施設」「農村の再生」「コミュニテ

ィ開発・農村起業」「交通問題解決と社会参加」「助成と融資」に分かれています。これからわが国でコミュニティ中間支援組織を作る時にとっても参考になるのではないのでしょうか。

4. わが国におけるNPOの役割

これらの国内、英国の事例から今後の日本でのコミュニティの再生を考えると、以下の4点が重要だと思います。

まず1点目に、国・自治体へのコミュニティ政策転換へのアドボカシーのためにNPOが動いていかなければならないということです。

2点目に、行政と住民との間のパートナーシップの模索、社会実験をしていかなければなりません。NPOでも社会実験のフィールドを探し、技術やノウハウの蓄積をしながら1点目にあげたアドボカシーにつなげていかなければなりません。

3点目に、ソーシャルエンタープライズとして、NPOは非営利経営の技術を蓄積していくことが必要です。

そして最後に、地域の人材養成として、ソーシャルアントレプレナーの育成や、その人たちが地域のなかで活躍できる場の提供や環境を創出していかなければならないということです。

コミュニティ再生には従来のような一部の人が運営するコミュニティであっては意味がなく、民主的な経営、行政主体の依存体質から脱却をしていかななくてはなりません。そのためには、運営や経営を自立的に行い、また多様な参加と新たな共同の構築をしていかななくてははいけません。新たな人材や人づくりが必要なのです。コミュニティ再生のためにNPOができることはたくさんあります。共に協力していきましょう。(記録：伊藤浩子)

BENYのはみ出しエッセイ ◆らくだのブック ◆ vol.23

芋煮会のごみを片づける仙台市民は、カッコいい。常務理事・事務局長 紅邑 晶子

9月も10日を過ぎると、仙台市内のコンビニの前には薪の束が積み上げられます。これはなに？と、4月から仙台に居住し始めた人は不思議に思うようです。答えは、秋の風物詩「芋煮会」用の薪です。これからの季節（11月初旬にかけて）、市内はもちろん県内の河川敷のあちこちでは、週末になると芋煮会から立ち上る煙りが見受けられ、職場や友達、家族づれなどのグループで大にぎわいになります。

さて、仙台市では、春と秋に「全市一斉ポイ捨てごみ調査・清掃活動、通称アレマキャンペーン」が展開されるのですが、ある団体は毎年秋のキャンペーン期間に広瀬川の河川敷でこの調査を行ないます。ある意味定点観測ですね。数年前までは、芋煮会によるかなりのごみの放置があり、大量のごみが集められていました。ところが、ある年からごみが激減したのです。それは、

仙台市が河川敷の一面にごみの集積所を設けたためでした。ごみを持ち帰るというのは面倒という人も、ごみを集めてすぐ近くの集積所に置いていくなら、難しくないということでしょうか。

ここ数年、仙台市内で行なわれる大イベントやプロスポーツが行なわれる会場では、積極的にごみの分別が行なわれています。こういった公共空間で、ポイ捨てごみについて意識する機会が増えてきたことが、芋煮会会場となっている河川敷のごみの散乱を減らすことにつながったのではと思います。ある日、全国ネットのワイドショーで、この夏河川敷でバーベキューをする人が急増し、ごみを放置して困っているという地域が紹介されていました。この話をきいたわたしは、仙台市民はもっと芋煮会での河川敷マナーのよさを誇りに思っているなと思いました。

物語は、大都会の街はずれにある古びた円形劇場にモモがやってくるところから始まり、モモはここで近所の人たちと、穏やかにゆとりのある暮らしを始めます。そこへ「時間貯蓄銀行」から来た灰色の男たちが、ゆとりはまったくの無駄で、人生を豊かにするために時間を貯蓄して将来利子を受しると説得します。時間を切り詰めて働く人々はいつしか不機嫌になり、町は灰色になっていきます。モモは、不思議な力メに導かれ、時間泥棒からみんなを救う旅に出ます。灰色の男たちが誰にも気付かずに人間に契約を結びさせるくだりは、男たちの冷気を実際に感じるようになり、ちよつと不気味です。

この本を読むと自分の生きる世界のことを考えさせられます。かたひじを張らずに自分のこころや、やりたいことをする時間を大切に生きたいとあらためて思います。一方、『エンデの遺言』という本の中で、エンデは、現代社会の経済システムについて「意識変革」の必要性を訴えています。「いまの経済は、その成長を実現するために、弱い立場に置かれている人の富や将来私たちが得るべき豊かさを消費してしまう」とエンデは考えていたようです。地域通貨の可能性についてエンデが示唆しているのも興味深いことです。

さて、本当に人生を豊かにするための時間の使い方や経済システムとは、どんなものなのでしょう。エンデのいう地域通貨の可能性やフェアトレードのしくみを学ぶこともヒントになるでしょう。

(渋谷 丹)

BOOK

モモ

ミヒヤエル・エンデ作
岩波書店 定価一七八五円(税込み)

活動
報告事務局活動報告
(2006/7/1~9/9)

■事務局/自主事業関連

- ・ 目標管理会議 (7/5)
- ・ 仙台市民活動サポートセンター全体ミーティング (7/6・18・8/1・18・23・9/7)
- ・ 「協働の強化書」研究会 (7/12・8/23)
- ・ 大町全体ミーティング (7/14・8/17)
- ・ 戦略会議 (7/14・8/17)
- ・ せんだいCARE S2006説明会 (7/25)
- ・ センター会議 (7/26・8/30)
- ・ 理事会 (第87回:7/28 第88回:8/21 第89回:9/9)
- ・ ふくふくファンド・みんなファンド審査会 (8/2)
- ・ 監査 (8/4・7)
- ・ 地域のNPO支援センタースタッフのための特別研修会 (8/27・28 青木)
- ・ 通常総会 (第8回:9/9)

■NPO/企業関連

- ・ 東北公益文科大学「コミュニティビジネス起業論」講師 (7/1・15・29・8/12 加藤)
- ・ 地球温暖化防止推進員研修/主催:(財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク研修講師 (7/1 遠藤智)
- ・ NPO活動をはじめするための基礎講座/主催:角田まちづくり福祉ほっとの会 (7/2 青木)
- ・ 尚綱学院大学総合人間科学部 講師 (7/6・8/1 加藤)
- ・ ボランティア活動論「これからのボランティアリーダーとは」/主催:東北福祉大学ボランティアセンター (7/10 紅邑)
- ・ ニート・フリーターにならないために/主催:総合学園ヒューマンアカデミー仙台校 (7/23 紅邑)
- ・ コミュニティ自立研究会/主催:(財)東北開発研究センター (7/28・8/7 加藤)
- ・ 地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト有識者委員会/主催:ハリウコミュニケーションズ(株) (7/31 紅邑)
- ・ 日本NPOセンターブラッシュアップセミナー会議 (8/1 紅邑)
- ・ シンポジウム「NPOの信頼性確保のために～事業報告・会計報告の質的向上に向けて～」/ (特) NPO会計税務専門家ネットワーク (9/2 加藤)

- ・ ソーシャル・アントレプレナー・ギャザリング「地域におけるコミュニティビジネス開発」/主催:(特) ソーシャル・イノベーション・ジャパン (9/3 加藤)

■自治体関連

- ・ 仙台市社会教育委員の会議 (7/11・8/3 紅邑)
- ・ 仙台市民活動サポートセンター「NPO立上運営相談」「協働相談」「NPOいろは塾」「利用者交流会最後の夜」「施設見学会」「開館式・内覧会」「これからの公共施設はこうでなくっちゃ!!宣言」(7/11・19・20・31・8/24・25・31・9/1)
- ・ コミュニティビジネス起業家セミナー/主催:仙台市産業振興事業団 (7/13・25 加藤・遠藤智)
- ・ コミュニティビジョン検討委員会/主催:仙台市企画市民局 (7/14・26・27・8/11 遠藤智)
- ・ 徳島県「協働」推進入門講座 (7/18・19・20・21 加藤)
- ・ 総合型地域スポーツクラブ育成助成金審査会 (7/21 遠藤智)
- ・ 多賀城市市民活動団体助成金審査会のアドバイザー/主催:多賀城市 (7/22 紅邑)
- ・ 市民トラストの森「定例会」/主催:仙台市建設局 (7/23・8/20 青木)
- ・ 杜の都の市民環境教育・学習推進会議/主催:仙台市環境局 (7/24・8/23 遠藤智)
- ・ クリーン仙台推進員グループ学習会/主催:仙台市環境局 (7/25・27 加藤)
- ・ 仙台市廃棄物対策審議会 (7/31 紅邑)
- ・ 仙台市民公益活動促進委員会 (8/3 紅邑)
- ・ シニア世代の事業創出及び社会貢献活動推進に関する懇談会/主催:仙台市企画市民局 (8/22・9/7 加藤)
- ・ 仙台市青葉区区民と創るまち推進事業評価委員会 (8/26 紅邑)
- ・ 地球環境基金評価専門委員会/主催:(独)環境再生保全機構 (8/29 加藤)
- ・ NPO法人の設立と運営/主催:東北大学医学部保健学科学術委員会 (8/30 青木)
- ・ 仙台市職員研修所 (9/8 加藤)

■相談、ヒアリング関連

- ・ 経営相談 (7/24・8/25 加藤)

サポート・ご協力 ありがとうございます

●平成17年度会員

(準会員) 三浦隆弘、渡辺礼子

●平成18年度会員

(正会員) (特) あかねグループ、(特) あぐりねっと21、I I H O E【人と組織と地球のための国際研究所】、アップル環境ネットワーク、荒井勝子、青木ユカリ、浅見紀夫、(特) いしのまきNPOセンター、(特) いわてNPO-NETサポート、内海裕一、AKK仙台、エルネット仙台、大久保正司、大滝精一、川崎あや、川村志厚、(特) 起業支援ネット、岸田清実、北尚登、(特) グループゆう、くりこま高原自然学校、子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ、佐藤寛治、佐藤令子、坂下康子、芝原浩美、白川由利枝、(特) すくすく保育研究所、杉山裕信、鈴木格、せんだい杜の子ども劇場、(特) ソキウスせんだい、(特) 多賀城市民スポーツクラブ、高橋英子、高橋幸夫、谷川俊太郎、田代久美、(特) ちば市民活動・市民事業サポートクラブ、(特) でんでん宮城いきいきネットワーク、東北HIVコミュニケーションズ、中津涼子、新川達郎、日本労働組合総連合会宮城県連合会、沼倉雅枝、(特) ハーモニーハウス、ハリウコミュニケーションズ(株)、長谷川公一、日向則子、フレッシュパル会、藤原範典、紅邑晶子、(特) ほっとあい、(特) MIYAGI子どもネットワーク、(特) ミヤギユースセンター、(特) みやぎ身体障害者サポートクラブ、(特) 宮城県断酒会、三好彰、(特) 麦の会、(特) 杜の伝言板ゆるる、(特) やまがた育児サークルランド、山田晴義、八木健、(特) ゆうあんどあい、遊佐さゆり、横須賀和江、渡辺祥子、渡辺博之、渡邊兼光 (準会員) 愛知絢子、今田忠、(特) 茨城NPOセンター・コモンズ、出雲幸五郎、伊藤寿朗、上田由美子、上野裕子、上野和弘、枝松芳枝、NPO協働体F J I、岡崎トミ子、大泉太由子、沖永哲哉、葛西淳子、片平たてもの応援團、木須八重子、熊谷龍一、小島妙子、高齢者配食サービスほけっと・はうす、後藤美香、心の図書室、高鷹厚、斎藤実、齊藤衣代、(特) 塩釜市体育協会、(特) シャロームの会、(特) 白石うぐいす会、鈴木素雄、鈴木典男、須藤達也、世古一穂、(社福) 仙台いのちの電話、(特) 仙台インターネット推進研究会、(社) 仙台青年会議所、瀧澤陽子、高橋亘、田中聡子、中務恵美、中野勇也、(社) 日本損害保険協会、(特) 日本総合空手道連盟、日本たばこ産業(株)仙台支店、早坂毅、早坂恵美、(有) 平野印刷所、広岡立美、藤田佐和子、布田剛、(特) ふくしまNPOネットワークセンター、槇ひさ恵、松尾敏行、宮野学、村山浩之、山口宏、WACまごころサービスみやぎ

●企業・団体協力 (五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて) 富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

発行：特定非営利活動法人
せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F

tel 022-264-1281 fax 022-264-1209

E-mail minmin@minmin.org

http://www.minmin.org/

会費・寄付はこちらにどうぞ！

郵便振替：02260-3-16325

加入者：せんだい・みやぎNPOセンター

編集スタッフ：遠藤智栄、真壁さおり、小松州子

＜事務局通信 みんみん＞を
今までご愛読いただき
ありがとうございました！

これまで会員の皆様に親しまれてきた＜事務局通信みんみん＞ですが、本号をもってお別れになります。これからは当センターの10周年記念を見据えた通信/ニュースレターに生まれ変わる予定です。乞うご期待ください！

みんみん編集後記

●昨日街を歩いていたら、今年初めて金木犀の香りをキャッチしました。暑い夏のお引越してから、サボセンもひと月が経とうとしています。さて、お届けしている「みんみん」は次号からリニューアルした誌面となります。どうぞお楽しみに。(小松(州)) ●奥会津書房出版の「会津学Vol.2」という本を取り寄せました。地元の伝統や文化に誇りと愛着を持つ会津人からの寄稿が満載です。会津は私のルーツ。秋の夜長に、じっくりと会津の魅力を味わいたいと思います。(真壁) ●近頃、私のまわりでは「冠・婚・葬・祭」がたくさん。その都度、親戚やお世話になった方と再会し、生と死、そして人生について語り合っています。多くの方との関わりに感謝しつつ、これからもNPOのこと、コミュニティのことに取り組んでいきたいと思います。私がチーフを担当させていただいたこの事務局通信も今回が最後。ご協力・ご支援ありがとうございました。(遠藤(智))